

1. 本研究は現在国民の関心の的である物価従って貨幣価値の問題をとり上げて家政学のあり方を究明しようとするものである。

2. 方法は論理的・経済哲学的方法による。

3. つぎのような見解に達した。現在は大昔のように生活に必要な物を自給自足するのではなく、それを貨幣によって購入して生活している。従って貨幣の価値は購買力従って生活内容に大きな影響を与える。ここに貨幣価値の変動と各種の家庭生活との関係更にそれに対処する方法の研究が必要になる。これは家政学の一分科である家庭経済学に任せておけばよいと考えられるが、私は家政学としてこの問題に取り組むべきであると思う。貨幣価値の下落に対しては賃上げ運動・貨幣的貯蓄を避けて土地・貴金属等に投資するという消極的方法と、米価・公共料金・生鮮食料品・種々の商品の適正価格維持への組織的消費者運動の研究更に組織作りを通しての政治的研究等多くのものがあるだろう。家政学が実践的科学であるとすれば、その実践は現代の社会では従来の家事的実践から社会的・政治的実践に移らざるをえないのではなかろうか。これに対しては従来の家事的・自然科学的イメージをもっている人々から“家政学は家庭内の事柄だけを研究すべきであって、それは家政学の範囲を逸脱したものである”という非難が起るだろう。私はこの点の論争において家政学の対象・性格更に実践科学の問題を究明したいのである。